



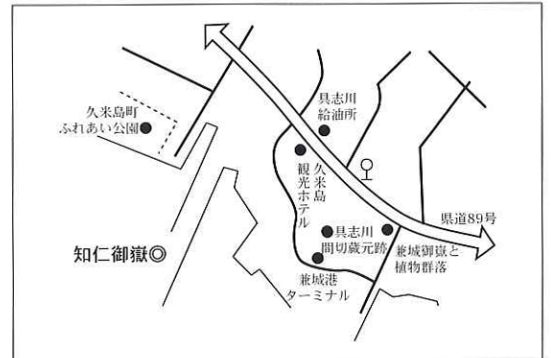
知 仁 御 嶽

指定名称 ちーみ うたき 知仁御嶽 (町指定史跡)
所在地 久米島町字大田
指定年月日 昭和49年4月26日
(旧具志川村指定)
所有者 久米島町

兼城港の海中に浮かぶ小島で、以前は日暮れになるとカラスの群れのネグラになったことからガラサー山とも呼ばれる。

島全体が「知仁御嶽」と呼ばれる御嶽で、神名を「ソク森大ツカサ、スデツカサガナシ」と称え、具志川間切例帳によれば、毎年2月と8月に諸作物の為のタカベ、9月にミヤ種子のタカベという神事が行われ、御いべの前に線香、花米、神酒を供えて諸作物の豊作祈願が行われた。

また、この小島は「三鳥問答」の舞台として知られている。奥付による



と、北京大筆者与儀筑登之親雲上が中国へ渡航の際、この島へ寄港したとき、在番の大山里之子親雲上と2人で書いたとするもので、書中には「君嶽」となっている。

なお、地形図には、「精川島」と記載されているが、本来の名称は「知仁」である。